

課題解決型研究プログラム 低炭素研究プログラム

委員会の主要意見
現状についての評価・質問等
<p>○高いレベルの学術研究を遂行しつつ、低炭素社会の実現に向けた対策の提案、効果の予測、社会実装まで幅広く活動が実施され、社会的な意義も大きい。</p> <p>○研究成果をもとにした IPCC 第 6 次報告書の執筆や、タラノア対話への意見提出など、国際的な貢献を高く評価できる。</p>
今後への期待など
<p>○今後は気候変動問題の分野はますます広くなることが予想され、すべての研究要素に対して同レベルでの取組を行うことは現実的ではない。対策の立案・提案に向けて現実的かつ効率的なアプローチを期待する。</p> <p>○政策研究としては長期的視点と短期的視点のバランスを念頭においた展開を期待する。</p> <p>○プロジェクト内の連携はしっかりできており、今後はプロジェクト間の連携による研究の更なる発展を期待する。</p>

主要意見に対する国環研の考え方
<p>①気候変動適応センターとも連携して引き続き成果を出し、国際的に発信できるように努めます。</p> <p>②観測でもモデルでも、既に多くの機関と連携させて頂いていますが、気候変動への対策の立案・提案に向けた効果的なアプローチにつきましては、国全体の研究成果の最大化の観点から、所外協力を通じて実現していきたいと考えます。</p> <p>③政策研究の一つとして、ネガティブエミッションは長期的に重要となる問題ととらえて取り組んでおりますが、短期的な研究ニーズについても再検討したいと思います。</p> <p>④プロジェクト間の連携として、温室効果ガス等の観測されたフラックスと排出インベントリの比較検討などの取り組みを進めています。さらに連携を進めていきたいと思えます。</p>